

編集／発行●山梨県総合農業技術センター

住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105

電話●0551-28-2496 Fax.0551-28-4909

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html>E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

種なし巨峰・ピオーネ等の 超早期加温栽培の 高品質安定生産への支援

「果樹技術普及センター」

果樹技術普及センターでは、果樹試験場で開発された「種なしピオーネの超早期加温栽培技術」を導入している栽培者を対象に高品質安定生産に向けた支援を進めています。

平成21年の導入農家数は、11名、栽培面積は147aとなっています。

種なし巨峰・ピオーネ等の超早期加温栽培は、日照時間の短い真冬の時期に生育するため、温湿度管理方法、炭酸ガスの施用、電照や二度切り等の高度な技術を組み合わせるとともにきめ細かい管理が重要になります。

そのため、果樹技術普及センターでは、JAと連携し、各園に温湿度記録計を設置する中で生育ステージ毎の個別巡回指導、栽培者の情報交換や技術統一のための栽培技術検討会の開催、栽培マニュアルの見直し等を行い、重点的な支援を進めています。

平成20年には、果粒肥大と収量増加を図るため、電照技術の導入が進み、果樹技術普及センターでも、設置方法や効果的な使用についても指導を行ってきました。

さらに、果樹試験場の平成20年度研究成果として発表された「赤色LED（発光ダイオード）を利用した電照技術」は、夜間電照技術の低コスト化と安定した果粒肥大効果が期待されることから、今後現地での実証と普及に向けて検討を進める予定です。

近年、農産物価格が伸び悩む中で、種なし巨峰・ピオーネ等の超早期加温栽培は、高単価での販売が期待でき、収益性が高い作型であるとともに露地栽培との労力配分が可能であることから、今後も普及拡大が期待されています。



●夜間電照により果粒肥大が向上したピオーネ



●栽培技術検討会



●赤色LED（発光ダイオード）による夜間電照試験

LED



第14回 環境保全型農業推進コンクールで優秀賞

「中北地域普及センター」



●受賞者の記念写真（上段左側から2人目と3人目）



●病害虫防除と整枝剪定講習会



●武田の里ウォークの様子

本年2月13日の全国環境保全型農業推進会議でJA梨北「新府桃共選場」の取組が優秀賞（全国農業協同組合中央会会長賞）に選ばれ、3月25日に関東農政局において、表彰状の伝達式と受賞者の事例発表が行われました。

中北地域普及センターから推薦した新府桃共選場は、昭和50年代から二重袋使用による農薬散布回数の削減や、生産者全員がエコファーマーとなり、環境保全型農業を実践しています。また地域活動では、桃の花見会、武田の里ウォークに参画して消費者との交流を行い、地域の活性化に貢献しています。

さらに、平成19年度から導入した農地・水・環境保全向上対策の推進と拡充をしたことが評価されました。

今後とも中北地域普及センターでは、環境保全型農業を実践する集団等に支援していきます。



●開講式

新規就農者の技術力アップ！ 果樹技術セミナー 開催中！！

「峡東地域普及センター」

峡東地域では、毎年20～30名が新規に就農しています。そのほとんどは、果樹経営へのUターン就農で、最近は、団塊の世代の退職帰農者が増えています。

峡東地域普及センターでは、JAや市等の関係機関と連携し、「果樹技術向上セミナー」を開催し、新規就農者の自立経営確立を支援しています。本セミナーは、果樹栽培に必要な基本的な技術や知識の習得を目的とし、現地講習会を主体とした実践セミナー（モモ、ブドウの2コース）と基礎知識を学習する基礎セミナーがあります。

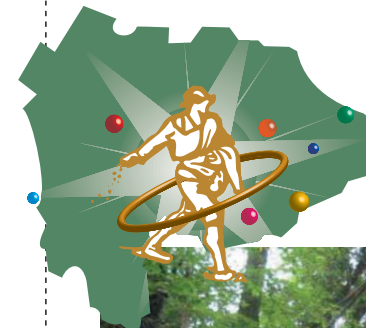
本年度の受講者は、65名で、年齢も20～60代と幅広く、それぞれが、将来の経営を思い描きつつ、熱心に受講しています。



●モモ摘果講習会



●ももの袋かけ講習



RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告

農村資源を活かした都市農村交流を支援



●当日集まった参加者



●親子で楽しむ茶摘み

「峡南地域普及センター」



峡南地域は、豊かな自然環境や景観、個性ある農産物や加工品、素朴な伝統文化など、魅力ある農村資源に恵まれています。

都市住民によるグリーンツーリズム等へのニーズが高まるなかで、峡南地域の隠れた豊かな資源を活用して、都市と農村の交流を行うことで地域農業の活性化が図られるものと期待されています。

峡南地域普及センターでは、峡南版グリーンツーリズムを実施している富士川農林学校などの様々な都市農村交流の取り組みを支援しています。

今年度は、「タケノコ狩り体験」に次いで2回目となる「茶摘み体験」が、5月24日(日)に身延町丸畑地区の茶畑で行われました。県内外から家族連れ37名が参加し、一番茶の収穫を楽しみました。



●茶摘み体験の様子

直売所「ふじさん」の設置による 活性化への取り組み

「富士・東部地域普及センター」

平成20年度鳴沢村では、生産者代表やJA鳴沢村、鳴沢村役場、農務事務所「道の駅なるさわの活性化に向けた会議」を組織し、「道の駅なるさわ」を拠点に農業振興を図るため、直売所の「経営理念」の策定と生産者の組織化、売り場の改善に取り組みました。

この結果、昨年の12月には、「ふじさん出荷組合」が設立され、本年3月24日には「ふじさん」という名称で直売所がオープンしました。これにより、生産者の意欲が一層高まり、周年出荷に向けた施設栽培の検討や、新規加工品開発への取り組みが活発化しています。



●オープニングイベント



●直売所「ふじさん」





スターチスの生産安定に向けた支援



「総合技術普及センター」

甲府市では、昭和61年に新たな花きの品目としてスターチスを導入して以来、小瀬地域を中心に生産が行われており、3月出荷の早だし産地として市場でも高い評価を得ています。

3月出荷の作型では、開花を早めるため定植前に約60日間の苗冷蔵処理を行なっています。しかし、処理中に根傷みが発生し苗品質が安定しないなどのリスクが伴います。これらのリスクを回避するため、総合農業技術センターでは冷蔵期間を短縮する方法について検討を行いました。

その結果、入庫する前に苗をひとまわり大きくしておくことによって短時間でも十分低温感応することが確認され、冷蔵処理期間を40日間に短縮することが実証されました。この冷蔵期間短縮技術の導入により、揃いが良く安定した品質の苗が供給可能となり、より品質の高い切り花生産につながっています。

今後は新品種の導入や販路の拡大に向けた取組みを通じて、甲府市のスターチス産地の維持発展に向けた支援を行なっていく予定です。



耕作放棄地再生利用 緊急対策交付金を 活用しませんか！

耕作放棄地となっている農振農用地区域内の農地を農業者等が借り受けて耕作を開始する場合、草刈りなどの再生作業に対し、10a当たり3万円又は5万円の支援を受けることができます。この他にもハウスの整備など様々な支援が用意されていますので、詳しくは各市町村の耕作放棄地対策協議会事務局または最寄りの県農務事務所へご相談下さい。

Yamanashi Prefectural Agricultural Academy

生産から流通・販売まで アグリビジネスの実際を学ぶ

平成22年度 学生募集

専門学校
山梨県立農業大学校

●養成科[果樹学科・園芸学科] ●専攻科[落葉果樹学科]

〒408-0021 山梨県北杜市長坂町長坂上条3251 TEL.0551-32-2269 FAX.0551-32-2034

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.ypa.ac.jp/>